国語（現代文・古文） 大阪大学　法・外国語・経済・人間科学部（前期） 1／5

＜総括＞

出題数	現代文　２題・古文　１題	試験時間　90分

・Ⅰは、従来は意志や直感や霊魂に依拠すると考えられた人間の意思決定が、実際には繰り返されるパターンの認識や確率計算に基づくと判明した現代において、人工知能（AI）が人間にとって代わることが人類にとって合理的であり、かえって幸福を増大させることを楽天的に主張したイスラエルの歴史学者の評論文の翻訳。論旨は極めて単純明快であり、読解に苦労する受験生は少なかったと思われる。これまでの大阪大学の出題にみられた〈現代社会に対する本質的な批判〉という側面が前年度以上に希薄になり、文章中の個別具体的な話題の整理に終始する形式の出題であるとの印象を否めない。さらに、問二の空欄補充問題は、大阪大学の入学試験問題として安易な出題であると言わざるをえない。
設問の数は四問から五問に増加している。
・Ⅱは、グローバリゼーションという社会現象を理解する際に「メタファー」を用いることの有効性を、「流れ」や「ネットワーク」といった具体例を挙げながら分析的に叙述した評論。設問の数は前年度と同じ三問であった。
・Ⅰの設問では「〇〇字以内」、Ⅱの設問においては「〇〇字から〇〇字で」という幅のある指定字数の形式が用いられている。
・前年度同様に、Ⅰのみに漢字の書き取り問題が四題出題されており、以前に比べて漢字の出題数が減少している。
・ⅠとⅡを合わせた記述すべき総字数は、前年度の六八〇字程度から五七〇字程度と減少し、受験生の負担が多少は軽減したが、時間の余裕があるとまでは言えない。

＜本文分析＞

大問番号	Ⅰ	Ⅱ
出　典（作者）	『21 Lessons――21 世紀の人類のための21 の思考』（ユヴァル・ノア・ハラリ　柴田裕之訳）	『分断と対話の社会学――グローバル社会を生きるための想像力』（塩原良和）
頻出度合・的中等	なし	なし
分　量前年比較	分量（減少・やや減少・［変化なし］・やや増加・増加）	分量（減少・やや減少・変化なし・［やや増加］・増加）
難　易前年比較	難易（易化・［やや易化］・変化なし・やや難化・難化）	難易（易化・やや易化・［変化なし］・やや難化・難化）

© 河合塾　2023 年

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）
Ⅰ	評　論	問一	記述式	標　準	漢字の書き取り問題 （四題「余剰」「疎通」「疾病」「恩恵」）
		問二	記述式	易	傍線部を踏まえた内容の文章の空欄を埋めるのにふさわしい部分を本文中から抜き出す問題（五〇字から六〇字） ※指定字数を手がかりに該当部分を本文中に探すことが求められるが、設問が要求する「さらに」の意図が曖昧である上に、傍線部直後に正解が見出されるだけに、実力のある受験生ほどかえって他の箇所を探し、時間を失ったと考えられる。 なお、文末に「のがうまくなる」を加えた五八字の解答も考えられる。
		問三	記述式	標　準	筆者が傍線部のように考える理由を、本文の内容に基づいて説明する問題（一二〇字以内） ※傍線部の「直感」の内容を踏まえつつ、AI が人間を凌ぐ（まさっている）根拠を、傍線部前後の文脈から捉え、まとめる。
		問四	記述式	標　準	傍線部について、本文の内容を踏まえて説明する問題（五〇字以内） ※「接続性」が述べられた、傍線部直後の段落の内容を踏まえる。
		問五	記述式	標　準	傍線部について、本文の内容を踏まえて説明する問題（二十五字以内） ※「更新性」が述べられた、傍線部直後の段落の内容を踏まえる。
Ⅱ	評　論	問一	記述式	標　準	傍線部の現象について、本文中のメタファーを用いて説明する問題（四〇字から六〇字） ※傍線部の前後の文脈を踏まえ、傍線部の具体的な事例に対して、「流れ」「水路」というメタファーを的確に用いて記述する。
		問二	記述式	標　準	傍線部の事例を著者自身が具現化した内容を説明する問題（一〇〇字から一二〇字） ※著者が「渦」というメタファーに「堆積物」という独自の思考と表現を加えている８頁の内容をまとめる。
		問三	記述式	標　準	傍線部について、本文で用いられているメタファーに即して説明する問題（一五〇字から一七〇字） ※「その中間」の「その」に該当する両極端の人間の二つのあり方に留意しつつ、多くの人間にとっての人生のありようを的確に「航海」になぞらえ、「流れ」と「船」のイメージを用いてまとめる。

※難易度は５段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

© 河合塾　2023 年

＜学習対策＞

・ハイレベルの評論文を中心に、全体の主旨や意味段落の論旨を的確に要約する練習とともに、設問の意図を正確に理解したうえで、答案を書き出す前に的確に解答のポイントを検討・整理した上で答案を作成するという練習を重ねよう。
・きわめて有力な得点源である漢字問題の対策をしっかりとやっておきたい。

© 河合塾　2023 年

国語(現代文・古文)大阪大学 法・外国語・経済・人間科学部（前期） ４／５

＜総括＞

出題数	現代文　2題・古文　1題	試験時間　90分

・文学部以外、また文学部の入試問題を含めても、明治期の文章が出題されるのは初めて。ただし、表現形式と叙述内容は、通常の古文(近世文)として読める文語文章である。
・文学部以外の入試問題として、評論(歌論を含む)が出題されるのは過去十年で初めて。ただし、年度をさかのぼれば、2009年に『俊頼髄脳』の出題がある。
・近世文として読める出典なので文章の難易度は標準的。
・設問構成はほぼ例年どおり。
・説明問題について、字数制限の出題はなかった。これは前年度と同様。ただし、ここ数年の傾向は、字数制限を設ける形式と字数制限を設けない形式の両様を混在させるものである。
・例年よく出題される和歌に関する設問はなかった。

＜本文分析＞

大問番号	Ⅲ
出　典 （作者）	『秋香歌かたり』 (中村秋香)
頻出度合 ・的中等	出典は稀。的中はなし。
分　量 前年比較	分量（減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加）約840字　(昨年1460字)
難　易 前年比較	難易（易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化）

＜大問分析＞

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）
Ⅲ	評論	問一	記述式	標　準	現代語訳。着眼点となる重要語句は「なでふ」「たはごと」。
		問二	記述式	標　準	内容説明。俳諧と和歌に関する典拠についての共通点を説明する。
		問三	記述式	標　準	内容説明。俳諧中の助詞を詠みかえた場合について、解釈の相違を説明する。
		問四	記述式	やや難	内容説明。「かかる」という言葉に注意して、俳諧に詠まれた内容を説明する。設問の要求する内容を正しく把握する必要がある。
		問五	記述式	やや難	内容説明。俳諧二句について、助詞の異同によって解釈が異なるという共通性を「面白き」と評した作者の理解の過程を説明する。設問の要求する内容を正しく把握する必要がある。

※難易度は５段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

© 河合塾　2023 年

＜学習対策＞

・重要古語や語法等の知識に習熟して、正確に現代語訳できる読解力を養うことが重要である。
・主語、目的語、指示内容などを考えながら、文章全体の展開や主旨を正確に理解する練習を平素から行っておくこと。
・現代語訳のみならず説明問題においても、文章全体の展開や主旨をふまえた記述力が要求されている。また、例年の傾向として、説明問題に字数制限が課されることも多いので、字数制限のある説明問題の演習も行っておくべきである。
・例年の傾向から、和歌について、和歌修辞や比喩を理解する学習や、説明問題をも意識した解釈の演習が必要である。

© 河合塾　2023 年